サイエンスとテクノロジーで
夢をかたちに

公益社団法人 応用物理学会
The Japan Society of Applied Physics

男女共同参画委員会
Gender Equality Committee

男女共同参画委員会の活動概要
Committee's activities for gender equality

目標

誰もが専門性を活かして貢献できる社会の構築を目指しています。12名の委員が中心となり、男女共同参画に関連した幅広い活動を行っています。大きな社会的影響力を持つ応用物理学会において活動を行うことで、男女共同参画の推進、社会の活性化に寄与したいと考えています。

委員会の沿革

2001年2月　男女共同参画ネットワーク準備委員会を発足
2001年7月　「男女共同参画委員会」設立
2006年3月　「人材育成・男女共同参画委員会」へ発展的改称
2011年4月　「人財育成・教育事業委員会」 へ改編
2012年2月　「人材育成委員会」へ改称
2015年3月　「男女共同参画委員会」へ改編

委員長：松木伸行、副委員長：小川賀代

男女共同参画活動

応用物理学会では、これまで様々な男女共同参画事業に先進的に取り組んできました。そのひとつが学会講演会期間中の託児室の運営です。2005年の春季・秋季学術講演会より設置された託児室には、すでに100名を大きく超える利用者があり、講演会事業の一環として運営されることとなってすっかり定着しました。このような活動は、会員が所属する大学や企業においても、子供を連れて学会へ参加することへの理解が前進することにも貢献しています。

シンポジウムの開催

学術講演会において、年一度シンポジウムを開催しています。
2013年春は、応用物学会の初の試みとして、女性研究者のみによる太陽電池の最新の研究成果と将来展望に関するシンポジウムを企画しました。第2回の2014年春はフォトニクス、第3回の2015年春はバイオエレクトロニクス、第4回の2016年春はプラズマと応用技術分野に関するシンポジウムを同様の趣旨で開催しました。
2017年春は、科学技術の未来に向けたダイバーシティ推進～男女・文理・職種・国籍の観点から～と題し、ダイバーシティをテーマに取り上げました。2018年春は、「科学技術立国日本」の凋落危機を救う若手研究者の活躍推進と題し、若手研究者のキャリアパスの課題について議論しました。

国際交流

2008年IUPAP-WGにて講演、2010年ASEPSにてポスター発表を行いました。
2013年には、APPC12 (The 12th Asia Pacific Physics Conference of AAPPS) のWIPにて講演を行いました。
2014年8月には、カナダで開催された国際会議5th International Conference for Women in Physicsにて招待講演、ポスター発表を行いました。
2015年8月には、韓国で行われたWIP会議（IUPAPアジア地域）、Gender Summitに参加し、ポスター発表・講演を行いました。
2016年12月には、豪州で開催されたAPPC13にてポスター発表を行いました。
2017年は、5月に一橋講堂で開催されたGender Summitと、7月にイギリスで開催されたIUPAP-WIPにてポスター発表を行いました。

研究者ネットワークの強化

女性会員を中心とした研究者のネットワークの活性化を目指して、2013年より、女子だけではない「女子会」を開催してきました。孤立しがちな女性会員をサポートし、ネットワークの力でもり立てていく役割を担いました。2016年より、性別や国籍を問わず多くの方々が参加できるよう、NEWMAP (NEtwork for Women and Men in Applied Physics) に改称し、さらに活発な議論の機会を提供しています。

中高生の理系進路選択支援

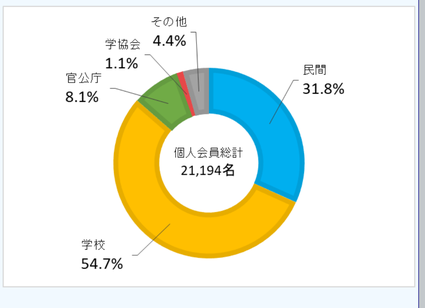
女子中高生の理系進路選択の支援を目的として、女子中高生と科学研究者・技術者、理系大学生・大学院生と交流し、理系の魅力を伝える場として2008年から「女子中高生夏の学校～科学・技術者のたまごたちへ～」を支援しています。キャリア講演、サイエンスアドベンチャー（科学探検隊）での実験、ポスターセッション等を通して多くの女子中高生の皆さんとの交流の場を広げています。

表彰事業

2009年に女性研究者奨励育成貢献賞（小舘賞）が設立され、2011年には、「女性研究者研究業績・人材育成賞」に名称変更を行いました。学会活動を通して応用物理学の研究活動において著しい成果をあげた女性研究者（A部門）と、男女共同参画活動の推進・人材育成に貢献することで科学技術の発展に大いに寄与した研究者・団体（B部門）を表彰しています。

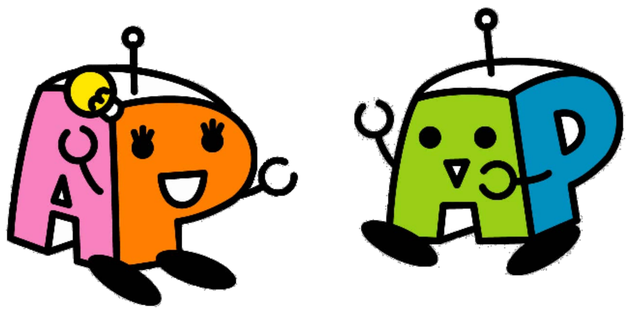
応用物理学会とは？

工学と物理学の接点にある最先端の研究課題、学際的なテーマに取り組み、日本の科学技術を牽引しています。会員数は2万を超え、大学・公的研究所の会員に加え、民間企業の研究開発部門に所属する技術者・研究者が重要な役割を果たしています。年2回の学術講演会は国内最大級で、海外の研究者も含めて約1万3千人（春秋合計）もの参加者が集まります。英国物理学会出版局（IOP Publishing）と提携して国際的英文論文誌JJAPとAPEXを刊行しています。
2014年のノーベル物理学賞を受賞された赤﨑、天野、中村の3氏はともに応用物理学会名誉会員であり、3氏がもたらしたイノベーションはまさに応用物理学会を舞台に生まれ、育ったものです。



応用物理学会における女性

応用物理学会は男女共同参画にもっとも熱心に取り組んでいる学会として知られています。応用物理学会員の現在の女性比率は6 %程度（一般会員5.2%、学生会員10.4 %）と決して高くはありませんが、多くの女性がこの分野で活躍しています。学会理事や代議員、委員会委員に占める女性の割合は10 %前後で、今後、女性会員の活躍する舞台はますます広がっていくでしょう。

詳細は下記ウェブページをご覧下さい。

公益社団法人応用物理学会　男女共同参画委員会
https://www.jsap.or.jp/gender-equality
Email: membership@jsap.or.jp